

感応同交（かんのうどうきょう）

私がいつもスーツをクリーニングに出すお店があります。ある日の夕方、スーツを取りに行くと四、五人のお客さんがお店の外まで並んでいたの、私も列の最後尾に加わりました。その時、受付をされている五十代の男性店員の様子を見てみると伝票の確認や、預かったスーツを裏で探す作業、スーツを預けに来た別のお客さんの伝票を書く作業などを全部一人でこなしています。それだけ並んでいるとかなり待つかも知れないなと思っていたのですが、お客さん一人一人に謝罪し、手



仕事を楽しんでいるかのような仕事ぶりに、皆が笑顔になっているのです。その様子を見て「これが、男性店員とお客さんとの感応同交なんだろうな。」と思っただけです。

私たち僧侶は法要の最後に、「檀信徒の皆さんが仏さまと感応同交（かんのうどうきょう）できますように」と御祈願をします。

「感応」とは私たちが日常生活の中で思う事。「同交」とは、交じり合う事つまり仏さまと私たち衆生の心が交わり合いますよという意味です。



はずです。直接、関わりのある人だけではありません。話す機会はなくとも、テレビでインタビュールされている人や街角で見かけた人の立ち振る舞いを見ているだけで、活力を与えられることがありませんか？それも仏さまとの感応同交なのです。

猛暑の中で忙しくてイライラすることなど、私たちの周りには「イライラの種」がたくさんあります。困ったことに「イライラ」は他人にうつりやすく、どんどんと広がってしまいます。しかし、それ以上に「仏さまの種」もたくさんあるのです。

少しでも多くの方が皆さまの心を得て周りの人を笑顔にする事で、仏さまの心を持つ人が一人二人と増えて広がり、またどこかで新しい出逢いが仏さまの種の栄養となって育ち、素晴らしい世界になっていくと思うのです。

公輔

に座ってらっしゃる姿を想像されるかもしれません。しかし、私が出会ったクリーニング店の男性店員のように、仏さまと同じ穏やかな心を持っている人は、皆さんの周りにもたくさんいます。

念願の七面山登山

5月9日、豊前組団で参副住職と共に総本山の身延山久遠寺へ行ってまいりました。久遠寺をお参りしたのはこれで2度目ですが、今回は信仰のお山である「七面山登頂」が最大の目的。各寺院のお上人、その奥様、そしてお檀家さんと共に3日間かけて、2千米のお山を登ってきました。



七面山行きを初めて聞いたときは、日ごろ全く運動をしない私にとって、お寺に嫁いだから5本の指に入るほどの一大事！高いお山を登ると聞いた時は「本当にそんな事出来るのだろうか」と、不安いっぱいでした。

大きな力となったのは、日ごろからお世話になっているお檀家さんがくださった登山グッズの数々。私が登ると聞き、亡くなられた奥様が愛用されていた登山シューズ、レイングッズ、ステイックなどを譲ってくださいました。

奥様は七面山に登られた事がないと聞き、「ならば私が連れて行ってさしあげなくては！」と力が湧いてきました。自分一人のためだと逃げ腰になってしまっても、どなたかと

一緒だと思えば、強くなれるので不思議ですね。



目指すのは頂上付近にある敬慎院という宿坊。ただひたすら歩いて歩いて登って、時にはすれ違う方々と声を掛け合い励まし合い、時折訪れる休憩所では持参したチ



翌日、下山前の早朝5時に「来光を見に外へ。前日は霧雨で見られるかどうか分からないと言われていましたが、幸運にも一面に広がる雲海から、オレンジ色に光り輝く日の出を拝むことが出来ました。お上人方が唱え始めた「南無妙法蓮華經」という声と共に目の前が暖かい光に包まれていく光景は、きっと一生忘れる事はないでしょう。



敬慎院に祀られている七面天女様は、頑張ったご褒美に私たちの心の鍵を開け思いを叶えてくださるのだそう。今回登山に挑んだ全員がそれぞれの思いを背負って登っており、その思いを聞いてくださったのだと思います。でもお願い事をするとか、その願いが叶うとかでなく、そのお山に登ろうとする方や迎えてくれる方がとにかくとても温かく、優しい。そんな皆さんの中にこそ「仏さま」がいらっしやるんだと、つくづく感じたのでした。

愛子